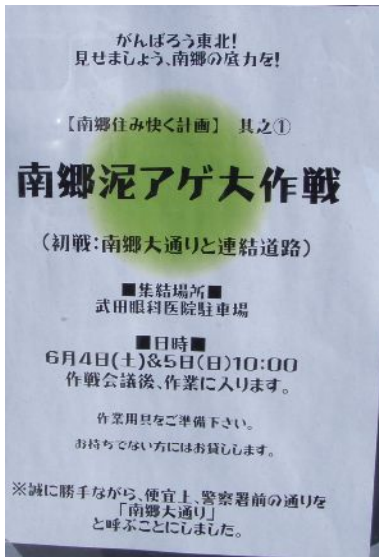


23年度

# パドラーズトピックスー12

## 東日本大震災一いつの考え方の報告 気仙沼からの報告(6月4日~6月6日)



4、5日は南郷泥上げ大作戦其の1です。南郷ベースが主体となり地域住民が我町、我地域を自分たちでという思いから今回の大作戦が計画され、思いがけず気仙沼の行政も動き出して行われました。

秋田からは秋田学生復興支援ネットワーク71名、秋田大学学生協職員10名、秋田メビウス 八郎潟20名、民主党秋田県連災害ボランティア29名、パドラーズ25名と秋田から合計154名、気仙沼ボランティア160名、地元参加者40名、RQ支援センターから10名、合計210名併せて364名で行われました。今回初めて300名超す大ボランティアの合同作業で、2週間かかって計画を練り、地元の受け入れ体制を整えたということを開きました。さぞ大変だったろうと思います。

内容は本部の指揮を南郷ベースの武田雄高、側溝のドラ上げ班は各団体のボランティア、フタは上げ、閉めはパドラーズなど細かく8班に分けそれぞれ班長を決め、各ボランティアを20名前後に分け、町内地図に優先順位を決め、処理したところをバツ印を付けて確認していくという作戦です。

当日のスケジュール	班分け	担当団体	責任者
10:00 班長会議 (到着次第集結し準備を)	本部	NANGO-BASE	武田ゆたか
全体会議 (注意事項等)	泥アゲ作業班	各団体の20名編成	
10:30 作業開始 (各班適宜、休憩をとって下さい)	フタ上げ班	秋田パドラーズ	畠山けん
12:00 昼食 (ボランティア含む参加者全員に放し出しもあります)	フタ閉じ班	秋田パドラーズ	畠山けん
13:30 作業再開	土のう回収車両部隊	NANGO-BASE	小野寺
16:00 作業終了・解散	南小土のう積み上げ班	秋田パドラーズ	小野寺
	高圧洗浄・消毒班	NANGO-BASE	武田ゆたか
	巡回・作業応援班	NANGO-BASE	伊東さん
作業の流れ			
フタ上げ	フタ上げ班により先行		
泥アゲ作業	バツ印、土のう詰 ※フタ閉めはなくても結構です。本部にて担当箇所終了の報告と次の担当箇所の指示を受けて下さい。		
フタ閉め班出動	南小土のう積み上げ班(南小側) 回収された土のうを下ろし、積み上げる。適宜、石灰をまく。		
高圧洗浄・消毒班出動			



各班長が畠山作戦隊長から説明を聞き、役割の確認です。地図上の赤い印が地元の方がトイレ提供を早く申し出た箇所です。地元とボランティアと一緒に活動しているのが嬉しいです。



打合せ後は各担当箇所に移り、黙々と作業開始です。ヘドロと悪臭に戦いながらの作業です。



土嚢に入れられたヘドロは側溝の横に置かれ、回収班がトラックで周り持っていきます。これが意外ときつく、水分を含んだ土嚢は重く、荷台に上げるのも力がいらいます。手に豆も出来

その上、袋からヘドロ水が飛び散ります。そのかいあってご覧のように1000袋の土嚢の山ができました。地盤沈下の見られるところで再利用されるそうです。



お昼は南郷地区の婦人部（震災後に結成）がおにぎりに京都の西本願寺のボランティアさんが300食のラーメンを炊き出してくれました。ここでも地元とボランティアが協力して行われました。この炊き出しは写真に写っている Get Backs の渡辺道德さんが演出しました。



今回参加されたボランティアの皆さんです。



今日の夜の先生は武田高明さんです。自分の体験を元に初めて参加した秋田、国際教養大の学生さんに熱っぽく話してくれました。震災の貴重な体験を生々の声で聞くことが出来、真剣に話を聞いていたようです。ガレキとヒドロの武田邸の食堂もご覧のとおりきれいになり、電気も付くようになりました。



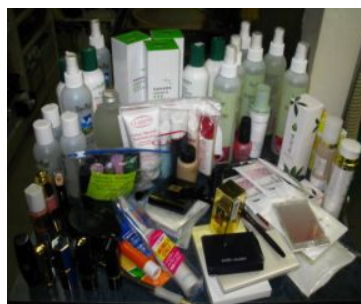
15日の午後からは約束していた大川向かいの幸町の「和風ホテル磯村」の一階のガレキヘドロ上げを行いました。磯村のホームページも参考までにご覧ください。<http://www.hotel-isomura.com/hotel/?p=1387>  
 支配人の池田さんは一階は使用できないので、2階をこの地域の事務所などに提供し、3階の無事な所をボランティアの無料宿泊所にしたいと考えているようでした。



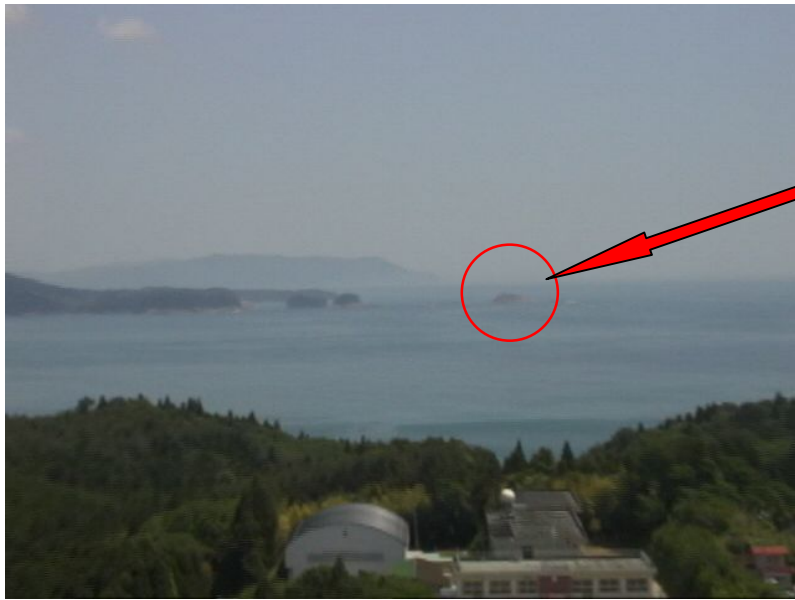
最後の最後まで与えられた仕事を中途半端にしないで請け負うパドラーズ魂がここにも現れています。ここまで綺麗にさせていただきありがとうございますと支配人から言われましたが、本当は洗浄までしたかったのですが、水道と電気がこの地域ではまだ復旧していないので、残念ながらできませんでした。



6日は5回目の陸前高田第一中学校での美容奉仕です。今回は湯沢の高久理事と共に奥様も一緒に参加しました。カットをしながら被災者とふれあうことで、一円も現金を持たない方もいること知り貴重な体験をしたようです。今回もシャンプーサービスも行い大変喜ばれました。前回しおりの渡辺さんもシャンプー設置をお手伝いしてもらい、この前カットしたヘアーのメンテナンスをしている写真です。



皆さんからいただいた化粧品は被災者の要望に応じて、全部提供させていただきました。また、今避難所では、日焼け止めクリームとバスタオルが不足しています。



唐桑半島から駒岳島付近を眺め遠くに陸前高田市が見えますが赤丸の島が津波で丸裸になり、木が一本も無くなり、写真では分かり難いですが茶色の島になっていました。津波のものすごさがここでも感じます。



渡辺さんから要請がありました新月中学校避難所でどうしてもベットがあればいいという方がいて中村理事が折りたたみの簡易ベットをプレゼントしました。



震災から3ヶ月になり、南郷地区も大川もご覧のようにがれきや車が撤去されだいぶ綺麗になってきました。が一步路地に入ると手使かずのがれきの山がまだまだたくさんあるのが現状です。



武田さんは自宅にNANGO-BASEという名の気仙沼の復興を目指した拠点を作りました。この地点をパドラーズの拠点として間借りし活動することになりました。ピンポイントで南郷地区を支援してきた活動がようやく地元の人たちも動き、そして行政も動き、地域の住みやすい環境造りを自分たちの手でと第一歩を踏み出した今回の大作戦でした。その活動ぶりを見て嬉しく、また多くのボランティアの方たちが力を合わせ、泥上げに一生懸命働く姿に心を打たれました。本当に素晴らしいことです。次は南郷の住民

が住みよい町、働きやすい町、防災に強い町、コミュニケーションの通う町など、復興に向けた住民自らのビジョンを提案し行動を起こしていくことにつながっていけばいいのかなと思います。

武田雄高さんは「また津波が来たらまた街をつくれればいい。今動き出した私たちの活動は、もし秋田が地震で被災した場合どう動いたらいいかの予行練習のつもりで活動しています。」と・・・